

令和4年度 事業報告

I 概要

本会が公益社団法人として、社会に認識される公益的な活動を進めて10年の節目を迎えました。

この10年は会員の皆さまの資質向上のため、知識やスキルを高める研修会を実施する等、基盤となる人づくりを進めてまいりました。令和4年度は次の10年を見据え、「県民の方々の公衆衛生の向上」に寄与できる事業展開を進めることに重点を置き活動いたしました。

その一つに、6月に開催された「第17回食育推進全国大会 in あいち」での「栄養の相談」があります。感染予防に配慮した新しい栄養相談を提案できるようブースの形を整え、一人一人の食生活を聞き取り、それに合わせたワンポイントアドバイスをメッセージとして書き込み、配布しました。515名の一般参加者があり大変盛況でした。

また、2月に実施した「愛知県健康づくり提唱のつどい」（ヤクルトグループ共催）は、一般からの参加を募り開催しました。当日は本会会員及び一般参加併せて96名の参加がありました。『循環器病予防のための食事栄養：疫学研究からのエビデンス』の講演は循環器予防のための食生活を知りたい、その関係性を理解したいとする方々からの参加が多く、講演後のアンケートには次回を期待するというご意見もみられました。

さらに令和4年度は、新型コロナウイルス感染症予防のため中止となっていた他団体主催のイベントが次々と再開されました。本会が参加した7つの事業の栄養相談件数は延1,219件となり、これらのイベントを通して、県民に対する健康づくりに寄与することができたと考えます。

一方、会員の資質向上のための新しい事業として、実践研究方法を習得する研修会を生涯教育基礎研修に位置づけ新しい形で実施しました。研修を受けるだけでなく、自ら自分の実践をまとめることができる力がこれから必要であると考え取り入れました。さらにその成果を「愛知県栄養士会実践報告会2022」において報告・共有し、会員の更なるレベルアップを図りました。この研修は令和5年度にも引き続き実施します。

その他、4年度実施した各種研修会は、オンライン方式と従来の対面式の併用による方法で実施しております。この方式により参加者数の増につながったことを評価し、今後の進め方にも活かしていけると考えます。

「栄養ケア・ステーション」も充実してまいりました。4年度末では述べ123名の会員の方々が登録されています。特に在宅医療・介護については生活状況・嗜好を踏まえた実行可能性の高い栄養食事指導の実施が望まれていることから、人材育成研修に力をいれてまいりました。在宅医療は訪問栄養指導だけでなく、診療報酬・介護報酬の加算対象となり、社会的に期待される時代がきております。さらなる研修会の必要性から2月にはスキルアップ研修を行っておりますが、オンラインであるものの115名の参加がありました。これは登録された方々の意識の高さだと考えております。

本会のホームページは令和4年4月からリニューアルしています。研修会、イベント情報、会員専用ページなどの情報発信だけでなく、企業からの事業依頼や会員からの問い合わせに幅広く活用できるようになっておりますので、ご利用ください。

II 重点項目

1 エビデンスに基づいた公益活動の創設

6月に本県で開催された食育推進全国大会に参加し、併せて専門知識を生かす「栄養の相談活動」に成果をあげました。

2 会員の専門知識・技術の向上

会員の自己研鑽の場としての生涯教育基礎研修「愛知県栄養士会実践報告会2022」を各種専門的研修会・講演会「愛知県健康づくり提唱のつどい」を充実し、知識・技術の向上を図りました。

3 栄養ケア・ステーションの充実

食育、スポーツ栄養、在宅医療・介護の運営委員会をもって、高齢者のみならず幅広い層に対応できる特徴をもって進めてきました。登録者数を増やすと同時に地区ごとに活躍できる仕組みを作ってきました。認定栄養ケア・ステーションとの連携強化に努めました。

4 関係諸機関・団体との連携強化

関係諸機関・各団体との連携・調整・強化を図り、各種の共催事業、後援事業に協力し、管理栄養士・栄養士の専門性と重要性を訴えつつ、事業の支援、協力を努めました。

5 組織強化対策

ホームページ等、情報機器の充実による継続会員の確保に努め、組織の強化を図りました。フレッシュダイエティシアン事業の充実により、学生時代から愛知県栄養士会の理解を高めました。